

# 北陸民放クラブだより

## 富山

### 『私のオアシス』 300円でミレーの世界へ

中田 敏彦 (KNB)

富山市中心街の中央通りアーケードに隣接する「街中美術館」が入館料300円の「ギヤルリ・ミレー」です。収蔵作品はミレーをはじめとしたバルビゾン派や写実主義の先駆者クールベなど、コロ、ロイス、ダール、バーテルの作品53点です。コレクションの魅力はその名の如く、ミレーの『羊の毛を刈る女』『洗濯する女』『夕暮れの村の道』など14点にのぼる作品です。

私は開館した2012年から毎年3〜4回観賞(一昨年末まで入館料200円、昨年から大人300円、学生200円、小中学生無料)。安価である事もさることながら雰囲気が高く、ある。広々としたワンフロアーに展示された作品群に包まれる感覚はパリ郊外のバルビゾン村に吸い込まれるようで、まさにミレーの世界である。特に夏の暑い日など静かなクーラーの効いた美の空間は私のオアシスです。



### 令和2年の新年会

石川

八田 静輔 (MRO)

「宝の持ち腐れ」になつていないかと云う点です。幸い徒歩3分位の近くに「くすりの富山」の老舗「越中反魂丹」の店があり、北陸新幹線利用やバスツアーの観光客が年間十万人訪れる。ちよつと足を延ばして「ギヤルリ・ミレー」へいか

令和2年の石川の新年会が1月14日から15日、加賀温泉郷のひとつ、粟津温泉で開催されました。例年この時期雪が心配されるのですが、今年は暖冬のおかげかはたまた

異常気象とでも言うべきか、雪の心配もなく開催することができました。総勢21人。新年懇親会は、賑やかに和気あい

あいの雰囲気で行われました。

盛り上がった勢いで、二次会では、誰からともなく「今、山城ブームだ。七尾城などは最高の山城と言われている」などという話が出たのです。そこで話が次第に盛り上がって、「山城研究会を」、いや「歴史探訪会を」などという話になりました。勢いというのは怖いもので、一気に会長はAさん、副会長はBさん、事務局長はCさんなどと話が弾みました。まさに「瓢箪から駒」。

さて、この話、「いや実は…」でその場限りの話で終わるか、それとも石川の新しい同好会の出現となるか、乞うご期待というところで

### 福井

#### 変貌しつつある福井駅前

小川 忍 (FTB)

福井は、3年後に迫った北陸新幹線の金沢〜敦賀延伸開業に向けて、いま大きく様変わりしようとしています。金沢駅から伸びてきた新幹線の橋脚は、県境を越え、山・川・田園・そして市街地をも抜けて敦賀へと向かっています。数年前からJR福井駅は西口・東口を中心に再開発が進められ、現在はほぼ完成し、西口では恐竜が大きく首を振りな



が来県者を歓迎しています。ただ、駅前商店街の一部(地元では三角地帯とよんでいる)の再開発の工事はこれからといったところ。

青写真はすでにできています。その中には、これまで中心地の核となってきたホテルも含まれ、近く建て直しのために営業を停止します。そのホテルは、北陸民放クラブ・福井が長年総会会場に利用してきたホテルのため、今年はやむなく県庁近くの別のホテルに変更しました。これまでのホテルに変わって「マリOTTホテル」の進出が決まっています。が、何でも高級指向とか。幹事は、今から料金的に心配しています。

その今年の総会でのミニ講演会は、朝倉氏遺跡保存会の会長に依頼してありますが、大河ドラマ『麒麟がくる』で明智光秀が同所に10年間滞在したとの紹介以降、脚光を浴びており、保存会長も一段と張り切っています。福井駅周辺の変貌とともに楽しみな総会になりそうです。